

錦鯉

鮮やかな錦鯉は、その豊富な色と柄の種類から、生きた芸術品だと考えられています。この観賞用の鯉は、真鯉の偶然の遺伝子変異により、小千谷で生まれました。1800 年代以降の選抜育種により、100 を超える品種が生まれ、その多くが世界各地に輸出されています。価格は錦鯉の模様と大きさによりますが、珍しい錦鯉の場合、住宅の価格に匹敵し、100 万米ドルに達することもあります。

偶然の変異

小千谷の農家は、1800 年代から観賞用の鯉を飼育してきました。この鯉は真鯉 (*Cyprinus carpio*) から分かれたもので、偶然の遺伝子変異により鱗に赤の模様が出たものです。小千谷市東山地区の農家は組織的に錦鯉を飼育し続け、大きな観賞用の品種を生産しています。

錦鯉が全国で認められるようになる

歴史を見ると、平安時代（794～1185 年）、観賞用の珍しい鯉の品種を飼育することは、公家の娯楽でした。鯉の飼育は、江戸時代（1603～1867 年）になっても、貴族階級だけが楽しむことのできる娯楽でした。1800 年代に錦鯉の飼育が進んで以降、観賞用の鯉は、手段を持ち合わせている人にとってはより手に入れやすい存在になりました。日本の最新の製品や技術を展示した 1914 年の東京大正博覧会で、錦鯉は全国的に注目されるようになりました。以来、日本中に関心が広まり、ブームとなりました。日本の経済が急速に成長していた 1960 年代には、観賞用の鯉の飼育が特に人気を博しました。

雪と土壌に育まれる

小千谷の環境は、丈夫で健康な鯉を育てるのに理想的で、鯉の平均寿命は約 30～40 年です。豊富な雪解け水により、自然のままのミネラル豊富な水が、山腹で段になった養殖池で錦鯉を育てます。数世紀にわたって、鯉の養殖農家は、砂土の池のほうに適した鯉とミネラル豊富な粘土の池でよく育つ鯉が存在することを見してきました。

錦鯉の種類

錦鯉の豊富な種類は、その色、模様、そして鱗で区別されます。もっとも人気の種類は、御三家と呼ばれる紅白、大正三色、昭和三色です。

紅白は、白い鱗に赤い模様が入っている鯉です。1800 年代に、小千谷で初めて飼育された観賞用の鯉の品種のひとつでした。大正三色は大正時代（1912～1926 年）に登場した品種で、紅白に似ており、黒い斑点が特徴です。昭和三色は、大正三色と同じ三色ですが、黒が目立つものが一般的です。昭和三色は、昭和時代（1945～1989 年）に初めて飼育されました。

他の人気の品種には、金色の「黄金」や、薄青い「浅黄」などがあります。多くの品種には、写り物、九紋竜、孔雀といった、想像力を喚起する名前が付けられています。

珍重される特徴

鯉は、体型、大きさ、体色、輝き、模様、そして水中での泳ぎ方の優雅さなど、さまざまな特徴により珍重されます。中でも体型は最も重要視されます。理想的な錦鯉の体型は、脊椎沿いによく発達した筋肉のある紡錘型です。これらの特徴すべてを有する鯉だと、1 億円（約 100 万ドル）を超える価格で販売されることもあります。